

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103722
法人名	有限会社アイファミリー
事業所名	グループホームファミリー
所在地	愛媛県松山市今在家1-11-12
自己評価作成日	平成23年2月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日中、リビングにはほとんどの利用者さんが集まり、みんなで歌を歌い、ゲーム、フーセンバレーなどをし、楽しく過ごされている。
 食事の食事に使用される野菜の大半が、施設の畑で作られた無農薬野菜です。おせち料理やお花見弁当は職員の手作りで、楽しみにしている利用者さんも多いです。季節感を大切にしたり、イベントや食事は利用者の食欲増進・元気の源になっていると思います。
 清潔感のある笑顔の耐えない暖かい施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

民生委員の方が声をかけてくださり、利用者も地域の「ふれあいサロン」に参加されている。利用者はサロンで、地域の高齢者の方達と一緒にお茶を楽しんだり、囲碁・将棋等しながら交流されている。ノロウイルス等、感染症が流行した時期には、事業所から手指消毒液について情報提供され、サロンにも設置されたようだ。近所を散歩している時に、野菜をいただいたり、みかんの無人販売を利用され、時には販売所の設置主が事業所にみかんを持って来て下さったこともある。事業所の畑で草引きをしているのを見て、近隣の方が手伝って下さったこともある。地域の運動会や夏祭りが近付くと「もうすぐ盆踊りやね」と近所の方が利用者さんに声をかけて下さる等、近隣の方も利用者の顔を覚えてくださり、声をかけてくれることが増えてきている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ファミリー

(ユニット名) 2 F

記入者(管理者)

氏名 別府 容子

評価完了日 23年 2月 25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 利用者の自立した生活を支援できるよう、理念のもと、季節感を大切にした家庭的で温かみのある生活・介護を心がけ、実践している。 定期的な勉強会開催、必要と思われる研修には積極的に参加する。また、研修で習得したことを他の職員に勉強会で伝え日々のケアの向上に繋がるようにしている。	
			(外部評価) 事業所名ファミリーの各字をもとにして、『地域との「ふ」れあいや「あ」らたな出会いを大切に「み」なさんにできることをしていただきながら、一人ひとりが自分らしく「一」番の笑顔が見られるようにお手伝いします』と理念を新たに作成されているところで、朝礼時に復唱して、職員の意識に定着できるよう、取り組みをすすめておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所が地域とのつながりを持てるよう、地域で行われている行事や催しに、積極的に参加している。	
			(外部評価) 民生委員の方が声をかけてくださり、利用者も地域の「ふれあいサロン」に参加されている。利用者はサロンで、地域の高齢者の方達と一緒にお茶を楽しんだり、囲碁・将棋等しながら交流されている。ノロウイルス等、感染症が流行した時期には、事業所から手指消毒液について情報提供され、サロンにも設置されたようだ。近所を散歩している時に、野菜をいただいたり、みかんの無人販売を利用され、時には販売所の設置主が事業所にみかんを持って来て下さったこともある。事業所の畑で草引きをしているのを見て、近隣の方が手伝って下さったこともある。地域の運動会や夏祭りが近付くと「もうすぐ盆踊りやね」と近所の方が利用者に声をかけて下さる等、近隣の方も利用者の顔を覚えてくださり、声をかけてくれることが増えてきている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を行い、地域で開催される行事にも積極的に参加している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には、地域の民生委員さんや町内会長、市の担当者の方にも出席していただき、助言をいただき、参考になることは実践するようにしている。</p> <p>(外部評価) 会議は、2ヶ月に1回開催されており、事業所の活動報告・非常災害対策についてや、研修報告等をされている。利用者も会議に出席していただき「手作りのおやつがおいしい」「外食がしたい」等、日々の暮らしや生活についての感想や意見を発表して下さったり、看取りの報告をした際には「みなさん、ようお世話されよった」と話して下さったことに、職員は感激されたようだ。</p>	<p>ご家族には、手紙で会議の案内をされたり、議事録も送っておられるが、現在、参加いただくことは少なめである。統括部長は「開催日時を工夫する等、ご家族や地域の方に出席していただきやすいようにしていきたい」と、話しておられた。今後さらに、いろいろな立場の方々に会議に参加していただくことに努め、いろいろな方から意見をうかがい、話し合いながら事業所のケアサービスの質を高めていくために活かしていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議時に市の担当の方から、感染症等の対応についてアドバイスをいただき実践したり、他事業所での取組みを伺い良い所は取り入れるようにしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の職員から、市内のデイサービス併設の「駄菓子屋」を教えていただき、利用者とは出かけてみられた。利用者は懐かしい造りの建物に「なんか落ち着く」と言われたり、くじ引きをしたり、引きあめをして大変喜ばれたようで「ホームに居る時とは違った表情を見ることができた」と、管理者は感想を話しておられた。市の担当者からは「食中毒」や「非常災害時」についてアドバイスをいただいた。</p>	<p>利用者の状態、職員の人数の面もあり、支援に難しさもあるようだが、利用者が「自分らしく一番の笑顔が見られる」ようなケアの実践に向けて、ケアに工夫を重ねていかれてほしい。利用者の安全を守りながら自由な暮らしができるよう、職員で話し合いを続けていかれてほしい。</p>
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 事業所内で身体拘束マニュアルを作成し、拘束ゼロに向けて勉強会を行っている。玄関は施錠しておらず、車椅子ベルトが必要な利用者に関しては家族に同意を得て、職員が手薄になるときのみ使用するよう徹底している。</p> <p>(外部評価) 車椅子の安全ベルトを使用していることが身体拘束になることを十分理解しておられるが、現在、車いすからのずり落ちを防ぐために、安全ベルトを着用している利用者がある。職員が対応できる時には、ソファに座って過ごせるよう支援して、着用時間が短くなるよう気を付けておられる。玄関は施錠されておらず「ここは家じゃない」と出て行かれる方は、止めるのではなく職員が付き添い、少し歩いて「そろそろご飯でも食べましょうか」と、タイミングを見て声をかけるようにされている。ご本人のお好きな裁縫等をすすめてみることもある。</p>	<p>利用者の状態、職員の人数の面もあり、支援に難しさもあるようだが、利用者が「自分らしく一番の笑顔が見られる」ようなケアの実践に向けて、ケアに工夫を重ねていかれてほしい。利用者の安全を守りながら自由な暮らしができるよう、職員で話し合いを続けていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待が発生しないよう職員間で注意しあい、虐待防止に努めている。また、虐待を見逃すことのないよう統括部長や管理者は、日常的に職員の利用者に対する言葉がけや態度等を日々確認し、虐待防止のため、指導・徹底をしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活を送るうえで必要と思われる利用者には、市へ相談し、身体障害者手帳の交付手続きや生活保護の申請などを行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時または退所時に、統括部長と管理者が十分な説明を行っている。家族等が不安や疑問を言われた際には、早急に対応・説明を行い、理解・納得していただけるような状態である。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの意見・苦情・不満等は管理者や統括部長が伺い、早期検討・対応等するよう心掛けている。施設での季節の行事時には、利用者家族様向けに案内を郵送し、参加を促している。また、家族には定期的に季刊やお手紙をお送りしている。 (外部評価) ご家族には毎月、利用者個々の日々の様子を写真とともに手紙で伝え、運営推進会議の開催のお知らせや議事録等も送付されている。ご家族から「おばあちゃんの元気そうな顔が見れてよかった」等の電話をいただくこともある。又、お礼の絵手紙を送って下さるご家族もある。シャワー浴のみの利用者がおられ、ご家族から湯船で温まれるよう要望があり、事業所では、入浴介助の職員数を増やして支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月行う事業所の勉強会時に統括部長や管理者が職員からの意見等を聞き、改善すべき点等は早急に検討し、対応するようにしている。	
			(外部評価) 事業所の勉強会は、職員が二人一組になり持ち回りでテーマを決め、資料も作り取り組まれている。担当職員からの発表後は、利用者個々に当てはめて考えながら意見交換を行っておられ、勉強会で話し合ったことが日々のケアに反映できるように仕組みが作られている。勉強会は、全職員が出席できるように、同じ内容の勉強会を2回行っておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 現在、介護職員処遇改善交付金を調整手当として全職員に支給している。また、休日を希望に沿うよう考慮したり、個々の実績を認めて手当を上げるなどし、各職員が働き甲斐を感じられるよう努力している。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる仕組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 常勤・非常勤関係なく、職員が希望する研修には出勤扱いで参加してもらうようにしている。研修の参加費用が必要な場合は会社が負担している。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域包括支援センター等が主催する交流会に参加し、他施設職員との交流や情報交換を行い、良い所は取り入れるようにしている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 十分に時間を取り、不安や要望・困っていることを納得いくまで傾聴し支援を行うようにしている。また、各個人の状態に応じて随時対応し、不安や要望等を聞き漏らすことのないよう努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所時や来訪時に十分な時間を取り、不安なことや要望を聞き、求められていることを十分把握し、ご家族様やご本人が納得いく説明を心掛けている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所時に利用者や家族から要望を聞き、優先すべき支援は何か見極めるよう努めている。また、同時に情報提供も行っている。身体状況等何らかの変化が見られる場合にも同様の対応を行っている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員は、利用者の身体状態に応じてできることは何か施設全体で話し合う時間を持ち、利用者が自立した生活が送れるよう職員と利用者が共に協力し、支え合えるような関係を築き、援助を行えるよう心掛けている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月、各利用者の状況報告を写真を添えてお送りしている。利用者だけでなく、家族の要望も支援の中に取り入れ、家族と共に利用者を支え、利用者が安心かつ快適に生活できるように関係を築くよう努めている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>馴染みの人が気兼ねなく訪問でき、心地よく過ごせる環境・雰囲気作りを心がけている。また、馴染みの方との外出や家族との外泊等、本人や家族の希望に沿った支援を行うよう努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者の友人が来られた際には、お茶をお出しする等して、ゆっくり過ごせるように気配りされている。誕生日には、ご家族と一緒に食事に出かけられたり、外泊される方もおられる。ご家族の方と一緒に、馴染みの美容室に行かれる方もいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、利用者が孤立することがないように、上手くコミュニケーションが図れない利用者には職員が間に入り、利用者同士の関わりが持てるよう支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者本人や家族と築いてきた関係性を大切にし、遠慮なくホームに立ち寄っていただけるよう声かけをしている。また、家族様からの相談なども積極的にのって差し上げている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしや会話の中から本人の要望や意向を聞き取り、ケアプランに反映させるようにしている。得た情報は、職員間で共有し日々のケアに繋げている。本人からの聞き取りが困難な場合は、家族の希望や日々のケアの中からニーズを見つけ、ケアプランに反映させている。 (外部評価) 入居後しばらくしてから事業所独自の「入居後情報表」の項目に沿って情報収集をされており「居室配置図」や「生活のリズム」等の項目があった。変化があった時には、色を変えて書き込み、情報を追加されている。「よもぎを植えてヨモギ餅を作りたい」との利用者からの提案で庭にヨモギを植えて育て、収穫して草餅を作られた。「水菜を入れたお雑煮がいい」と希望があって、畑に水菜を植えてお正月には、水菜入りの雑煮を皆で楽しまれた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から、生活歴や趣味などを聞き取り、馴染みの生活が日々の生活の中で生かせるよう心がけている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各利用者ごとに1日の過ごし方を記録している。また、介護支援経過記録を書くことで、利用者の身体状態の変化を早期発見し、現状の把握とケアの改善に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人や家族から聞き取りにより情報収集し、介護計画書を作成している。また、毎月の勉強会時にカンファレンスを行い、職員からの意見やアイデアなども介護計画書に反映させている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、職員も参加しカンファレンスを行い、ケアマネジャーが作成されている。ご家族には来訪時や電話で意見を聞くようにされており「春を感じられるように散歩をしてほしい」等、その時々のご家族のケアへの要望等も計画に反映しておられる。計画は3ヵ月ごとに見直しされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護計画は定期的に見直しを行っている。利用者の状態に変化があった場合は、早急に状態を把握し再アセスメントを行ったうえで新たな介護計画を作成している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者や家族との面談や聞き取りの中で、その時々に必要なニーズを見出して支援を柔軟化させ、一人ひとりのニーズに見合った支援ができるよう心がけている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 民生委員さんには、運営推進会議や地区の催し等多方面にお世話になっている。消防署の方を交えた消防訓練を行ったり、地方祭では、多くの地域住民の方がホームに来られ、神輿や獅子舞を楽しむことができている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 2週間に1度、各利用者のかかりつけ医が往診に来てくださっている。また、24時間協力医による夜間や急変時の往診が可能である。</p> <p>(外部評価) 介護度が重度の利用者や、重度になりつつある利用者は、24時間体制の協力医に変更をしていただろうご家族と話し合われている。薬の変更や状態の変化等があれば、職員がご家族に知らせたり、医師が直接、ご家族に電話で説明をしてくださることもある。調査訪問時、往診日で、事業所の看護師資格を有する職員が医師のそばで、利用者個々の体調等を説明されていた。足の腫れや治療等を理由にして、入浴を不安に思う利用者がおられるが、往診時に医師からご本人に「入浴しても大丈夫」なことを話していただくと、入浴するきっかけになるようだ。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 協力医療機関の看護師と連携体制を取り、相談・往診等を行っていただいている。また、非常勤の看護師が在籍しているため、相談しながら安心して支援を行うことができている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院中の利用者の元へこまめに職員が訪問し、主治医や病棟の看護師からも状態を聞いたり、情報交換を行っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化した場合における対応に係る指針を作成し、家族にも同意を得ている。家族からの要望もあり、24時間対応の協力医療機関との連携体制を整えたり、看取りに対する勉強会をするなど見取り支援が行える体制を整えている。</p> <p>(外部評価) 事業所では、初めて看取り支援を経験された。最期は、職員が声を掛けるとうなずかれたり、頭を動かして意思表示をしてくださったようだ。職員は、事業所の庭に咲いている梅の枝を取って来て、ご本人に花の香りを嗅いでもらって、一緒に早春を感じたようなこともあったようだ。利用者ご本人がお元気だった頃、「延命治療は望まない」と書いたものをご家族に渡しておられ、着物をご自分で縫って用意もされており、ご本人の希望に沿った看取りをご家族とともに支援された。居室にご家族は泊まり、事業所で布団や食事を用意された。その後、ご家族から、お礼の手紙をいただいた。今回の看取り支援に対しての職員のかかわり方を見て、統括部長は「配慮を持って支援する職員の姿、一人ひとりの優しい気持ちや思いやりが介助に感じられた」と感想を話しておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時や事故時の対応マニュアルを作成し、全職員が理解・把握している。マニュアルはいつでも見ることができる場所に保管しており、いざという時に慌てることがないように定期的に勉強会で対応を再確認し、実践できるようにしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署員の指導による防火訓練を定期的に行っている。災害時の対応マニュアルは全職員が把握しており、事業所独自の訓練も定期的に行っている。また、災害時に地域との連携が図れるよう地区内で行われた防災訓練にも参加している。 (外部評価) 地区の防災訓練時には、利用者数名と職員が参加され、消火器を使って消火訓練等も体験された。「通報装置」を押すと、区長や民生委員の方にも連絡がつくようになっている。事業所の貯水タンクを、事業所を完全に消火できるだけの十分な水量のタンクに取り替えられた。事業所でも、利用者と夜間想定避難訓練を実施され、消防署の方からは「スプリンクラーで火は消えると思うので、2階の利用者はベランダまで避難して下さい」とアドバイスをいただいた。	事業所の避難訓練に、地域の方にも参加していただく等して、地域の方にも協力していただきながら、利用者・職員の安全が確保されるよう、体制作りもすすめていかれてほしい。又、災害時、地域の方達と助け合えるような関係作りや、いざという時、事業所が地域の方達のためにできること等についても、考えてみる機会にしてはどうだろうか。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人、家族に確認をとり、馴染みの呼び名で名前を呼ぶこともあるが、基本的には一人ひとりの人格が尊重できるような声かけをしている。個人情報、外部に漏れることがないよう厳重に保管し取り扱っている。 (外部評価) 調査訪問時、職員は、居室やトイレをノックして確認してから入るようにされていた。利用者の以前の職業等も踏まえた言葉かけにも配慮をされている。職員の言葉かけで、利用者の言葉を否定するような場面がみられた時には、その都度、統括部長が注意をされている。髪を伸ばしたい方は伸ばされていたり、パーマを当てたり、毛染めをしている利用者もあられ、それぞれの好みでの個性が感じられる髪型にされていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定が可能な利用者については、本人の思いや希望に沿ったケアをするよう心がけている。自己決定が困難な利用者については家族と相談したり、利用者本人の表情等から気持ちを理解し、支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は、利用者が各自のペースでゆったりとした時間が過ごせるような環境・雰囲気作りを心がけている。また、利用者が孤立することのないよう声かけや見守りを行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 送迎付きの理容室や移動美容室を利用し、身だしなみに気をつけている。職員が散髪をするときもある。また、女性利用者の髪を職員がセットしたり、外出時にはお化粧をするなど、その人らしいおしゃれの支援を行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ホームの菜園で、利用者と職員と一緒に野菜を育て収穫し、食材の中に取り入れている。野菜の下ごしらえやお茶汲み、下膳等利用者各自ができることは、無理のない程度で行っていただくようにしている。	
			(外部評価) 統括部長が、利用者の方に食べたいものを聞く等して、一週間ごとに献立を立てておられ、その日の担当職員が調理するようになっている。調査訪問時、魚が苦手な利用者には、肉料理に替える等されていた。陶器のお茶碗が重たい方には、プラスチックの器を用意されていた。減塩が必要な方には、味付け前に取り分けておく等されている。ミキサー食のトロミ剤の調整等も、利用者の食べやすさやとろみ加減に配慮されている。利用者は、食事の下ごしらえを職員と一緒にしたり、お盆を拭いたりお箸を並べたり、食後、下膳する方も見られた。野菜は、ほとんどが事業所の農園の無農薬野菜を使用されている。ひな祭りや端午の節句等には、利用者も一緒にケーキを作ってお祝いされる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの身体状況に応じた食事形態で食事を提供し、必要な利用者には栄養バランスや水分量を記録し、栄養不足・水分不足にならないよう注意している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声かけ・誘導し口腔内の清潔が保てるようにしている。義歯を使用している利用者には、夕食後義歯をはずしていただき、洗浄剤での洗浄も行っている。口腔ケア時は、口腔内に汚れや傷がないか確認し必要に応じて歯科受診している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、パターンや習慣に合わせて排泄支援を行っている。おむつを使用している利用者が、どうすればトイレで排泄できるか職員間で話し合い、おむつの使用を減らす支援を心がけている。	
			(外部評価) 利用者個々にタイミングを見て、声をかけるようにされている。夜間はベッド上から鈴やタンバリンを鳴らして職員を呼ぶ利用者もおられ、職員はトイレへお連れしている。ご自分でトイレに行くような利用者も、長時間トイレに行かれた様子がない時には、職員から声をかけるようにされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の排便確認は、毎日行っている。何日も排便がみられない方には、主治医指示のもと便秘薬を内服したり、腹部マッサージ、食物繊維のものや水分を多く摂っていただくなど便秘予防に努めている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間帯は決まっているが、全利用者が週2~3回入浴している。通院や外出があるときは臨機応変に対応している。車椅子の方で、以前はシャワー浴だった方が、介助者の人数を増やすことで浴槽に入れるようになった。	
			(外部評価) リフト浴の設置を検討され、レンタルをして試用されたが、移動時に浴槽に足が引っかかり危険だったり、職員が乗っても不安定で怖かったこともあって、現在は、職員数を増やして入浴介助をされている。菖蒲湯やゆず湯、又、いろいろな種類の入浴剤を入れ、においや見た目等でも楽しめるようにされている。ジェットバスも付いている。ご自分の好みのシャンプーを使う方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 1日の生活リズムが崩れないよう、レクリエーションなどの日中活動を充実させ、夜間ぐっすり眠ることができるよう支援を行っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の薬は全てホームで管理している。処方箋はいつでも職員が見ることができるよう決められた場所で保管している。各利用者の毎食後の薬が確認できるよう薬表を作り、薬に変更があった場合は入れ替え、全職員に周知している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 囲碁や将棋、洗濯物干し、野菜の下ごしらえなど利用者それぞれが得意とすることをしていただいたり、ドライブや散歩等で気分転換していただけるような支援をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に応じて、近所のスーパーへ買い物に行っている。天気の良い日には散歩をしたり、利用者全員で近くの神社に参拝へ行ったり、お花見に出掛けたりしている。本人・家族の希望による外出も自由にできるようにしている。 (外部評価) 春になると利用者から「そろそろじゃない？」という声が聞かれ、近くの土手沿いに土筆を採りに出かけておられ、季節的に少し早くても「見に行きたい」と希望があり、出かけてみることもあるようだ。又「お墓参りに行きたい」と言われる方に職員が同行してお参りされたり、「この鍬はいかん」と言う利用者のご自宅に鍬を取り行かれたこともある。お菓子や食べたい物を買いに「スーパーに行きたい」と希望する利用者も多く、時々出かけておられる。事業所では、最近「車椅子の方が乗れる車を購入したので外出しやすくなった」と話しておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 近くの無人販売所で小額の買い物を希望される利用者は、小額のみ自分で管理できるようにしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や友人に電話を掛けたり、手紙のやりとりなど希望に沿った支援ができるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用空間は誰もが気持ちよく使えるよう清潔・衛生に配慮し、季節感が感じられるよう季節の花を飾ったり、施設内は季節の飾り付けを行い、居心地が良い空間が作れるよう全職員が心掛けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関を入ってすぐ目に付くところに、愛媛県の総合介護情報サイト、メдикаサイトの「わたしの『逸品』」に応募し、大賞をとった作品と賞状が額縁に入れて飾られていた。事業所の庭には、梅や金柑の木、レタスやネギの植えられた畑、水仙等の花も咲いていた。収穫した梅で梅酒や、金柑の甘露煮を作る等されている。壁には利用者の方が詠んだ短歌や俳句が飾られていた。七段飾りのひな人形や菜の花等も飾れていた。昼食後、窓際の日よく当たる場所にご自分で椅子を動かして座り新聞を読んでおられる方、畳コーナーで本を読む方、ご自分でチャンネルを換えテレビを見る方もおられた。新聞を読んでいる方に、別の利用者の方が「なんか面白い番組ある？」と声をかけておられた。朝のラジオ体操を日課にされており、調査訪問時も皆で体操をされていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>誰もがくつろげる空間が作れるよう、ソファを会話のしやすい位置に配置したり、リビングに季節の花を飾るなどしている。利用者同士が楽しく過ごせるよう、囲碁や将棋のできるスペースを造ったり、一人で静かに過ごせる空間を設けるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居室には備え付けのタンスの他に、入所前から使っている馴染みの家具を置いたり、馴染みの物を飾ったりしている。本人の希望や身体状態に応じて、その都度模様替えもしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室にじゅうたんを敷いている方やご家族の写真を飾っておられる方も見られた。タンスやベッドは備え付けのものを用意されているが、ご自分のベッドを持ち込まれている方もいる。自室で絵を描く方は、画材や絵の資料等も置いておられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の身体状況や理解力に応じて居室の位置を変えたり、居室の入り口に大きく目印を付けるなどして、自立した生活が送れるよう職員間で話し合いながら工夫している。</p>	